

SEA LIFE NEWS

TOKYO SEA LIFE PARK



葛西臨海水族園

グースネックバーナクル

【英名】goose neck barnacle

【学名】*Pollicipes polymerus*

「カナダ西岸」水槽で展示しているフジツボのなかまで、エビやカニと同じ甲殻類です。白い爪のような殻（頭状部）のすきまから、熊手に似た「蔓脚」という器官が出てきます。この蔓脚をつかって水中に漂っている小さなプランクトンをつかまえて食べます。しばらく観察していると、広げた蔓脚の一部をくるくると丸めて殻の中に入ることがあります。これは蔓脚でつかまえたエサを口に運んでいるところです。殻の中に入った蔓脚はまたすぐに出てきて、エサが流れてくるのを待ちます。同じ水槽にいるジャイアントエイコンバーナクルや「チリ沿岸」水槽のピコロコもフジツボのなかまで、小さなプランクトンを食べますが、蔓脚のつかい方が少し違います。ぜひ見比べてみてください。（教育普及係 村松 茉由子）

CONTENTS

SEA LIFE TOPICS

- フジツボの赤ちゃん
- ワラワラ、ワレカラ

なぎさNEWS

- 生き物採集、10分間チャレンジ!
- なぎさで探そう! こんな生き物「ガザミ」

水族園のもう一つの顔

- 標本の作り方 乾燥標本編

TSLP LATEST



Vol.24 No.4 2026

AUGUST

通巻

129

SEA LIFE TOPICS

フジツボの赤ちゃん

「世界の海」エリア「チリ沿岸」水槽では、ピコロコとミネフジツボの2種のフジツボを展示しています。フジツボのなかまは、生まれたときは海を漂う生活をしますが、脱皮や変態をして、やがて岩などにくっついて「移動しない」生活をするようになります。2026年4月、この水槽でフジツボの赤ちゃん（幼生）が生まれたので紹介します。



岩にくっついてくらすピコロコの成体

交尾を確認！ 3月末ごろ、フジツボたちにエサを与えているときに、ピコロコがいつもとは異なる動きをしていることに気づきました。交尾をしていたのです。ピコロコは雌雄同体で、とても長いオスの生殖器をもつため、岩などにくっついていてる状態でも周りの個体と交尾をすることができます。交尾のあと、精子を受け取った個体の殻の中で受精卵が保たれ、しばらくしてふ化した幼生が放出されます。

幼生を発見！ 交尾を確認したあと「幼生が出てきたらいいな」と思いながら、毎日水槽を観察していました。すると4月末ごろ、水面にたくさんの小さな白い点々が浮いているのを見つけました。すくいとって顕微鏡で見ると、それはフジツボのノープリウス幼生でした。



交尾のようす。左の個体から細長い生殖器が伸び、右の個体に入っている

育ててみよう 生まれた幼生を集めて育ててみることにしました。毎日、エサとなる植物プランクトンを与えたり、水を換えたりしました。幼生は脱皮を繰り返して約15日で、体は丸く、あしはピンク色に、眼は1つから3つになったのです。

ノープリウス幼生はさらに成長すると活発に泳ぐキプリス幼生に変態します。キプリス幼生は岩などにくっついた後に変態し、いわゆる「フジツボ」の姿になります。展示している2種は幼生の段階ではよく似ています。幼生が放出されたところを実際に見ていないため、どちらの種かはまだ分かりませんが、引き続き育ててみます。幼生はとても小さく見つけるのは大変ですが、タイミングが合えば幼生を放出する瞬間や交尾の様子を観察できるかもしれません。ぜひじっくりと観察してみてください。（飼育展示係 川上 七海）



生まれてすぐのノープリウス幼生



成長したノープリウス幼生

脱皮を繰り返して、体は大きく丸っこくなり、眼は3つになる

ワラワラ、ワレカラ

ワレカラは海藻や海草などの表面でくらす甲殻類です。緑や茶色の細長い枝のような体は目立たず、多くの人はその存在に気付かないかもしれません。日本では約100種が知られていますが、そのなかでも「東京の海」エリア「アマモ場の小さな生き物」水槽で飼育しているオオワレカラは全長5cm以上になる日本最大のワレカラです。

水槽のオオワレカラを見ていると、体の表面に毛のようなものがワラワラとうごめいていることがあります。実はこの毛のようなものは子ども（幼体）なのです。よく見ると一つ一つがオオワレカラの形をしています。メス親の体の中央あたりにある袋の中でふ化した幼体たちは、ふだんは親の背などにつかまったままおとなしくしています。ところが、エサとなるアルテミアという小さなプランクトンを与えると、「待ってました！」とばかりに、ワラワラと活発に動き出します。リズムカルに体を前後にゆらし、脚などでアルテミアをキャッチして食べます。

7mmほどになると幼体は次第に母親から離れますが、なかには1か月以上、1cmほどまで育っても母親についている個体もありました。親から離れた幼体たちは、後ろの3対の脚でアマモにしっかりとつかまり、やはり体を揺らして毎日エサを食べ、脱皮を繰り返して次第に大きくなります。先日、親離れてから1か月ほど経過したオオワレカラが、幼体を付けているのを見つけ、「もう親になったのか」と成長の早さにも驚きました。見過ごしてしまいそうな水槽の片隅でも、じつは毎日さまざまな出来事が起きています。ぜひお見逃しなく。

（飼育展示係 堀田 桃子）



幼体がメス親の体にくっついてる

なぎさ NEWS



生き物採集、10分間チャレンジ！

スタッフ一人で「西なぎさ」の生き物採集をしたら、どれくらいとれるんだろう？ 気になったらやってみよう！ ということで、時間は10分、道具は使わない、というルールでチャレンジしてみました。

生き物をつかまえるにはいくつかコツがあります。まずは、生き物がつくった痕跡をさがすこと。干潟を見渡せば、巣穴や、エサを食べた跡、足跡などが見つかります。砂地では早速、巣穴を見つけ、手で穴を掘ってコメツキガニをゲットしました。また、隠れ場所をさがすのも一つです。石をひっくり返すと、タカノケフサイソガニがじっと隠れていました。そして、干潟の上をよく観察してみると小さな生き物が見えてきます。しゃがんでしおだまりをのぞくと、ウミウシのなかまのヤミヨキシセワタがゆっくりと砂の上を這っていました。気になる結果は、合計で12種54個体の生き物がとれました！ 10分という短い時間でしたが、自然の中で生き物と向き合う時間はとても楽しかったです。皆さんも、特別な道具も必要なく生き物採集ができる干潟に遊びにいってみてください。

(教育普及係 田中 隼人)



よし、やってみよう！



ヤマトオサガニはどろろ泥地にいるぞ



カニ類や貝類、いろいろとれた！

なぎさで探そう！ こんな生き物

見つけやすさ ★☆☆☆☆

サイズ 甲羅の幅 最大 / 25cm

見つけるコツ

「西なぎさ」のカニのなかでは、とても大きくなるカニ。でも、「西なぎさ」で見つかるものはまだ小さい子どもが多い。生きているカニはあまりみつからないけど、ぬけがらがよく落ちているよ。砂にかくれて体がみえにくいときもあるから、トゲトゲの殻の形を覚えてよくさがしてみよう。

ガザミ (ワタリガニ科)

■ガザミはこんな生き物

「西なぎさ」でみつけたら、あしをよくみてみよう。一番後ろのあしがオールみたいにならな形になっているよ。このオールみたいなあしをすばやく動かして、水中を泳いで移動することができるんだ。生きているガザミをみつけても、手でつかまえるときは気をつけて。長くて大きなはさみあしにはさまれるとけがをしちゃうよ。(調査係 幅 祥太)



小さいぬけがらも発見！



ガザミの成体
(甲羅の幅13cmの実寸大)

このあしで泳ぐぞ！

水族園 のもう一つの顔

情報資料室にはスタッフお手製の標本がたくさん!



標本の作り方 乾燥標本編

水族園では、展示したり収集したりしたさまざまな生き物を、研究や教育普及活動で活用するため標本として保存しています。これらの標本にはいろいろな種類があります。今回は、そのなかでも「乾燥標本」、とくに先日作製した、タカノケフサイソガニというカニの脱皮殻乾燥標本を例に紹介します。エビやカニのなかまは、古くなった自分の殻をぬぎずして「脱皮」をして成長します。このときも、水槽の中で1匹増えた!?と思うくらい、甲羅だけでなくはさみやあし先までしっかり残った状態で脱皮していました。

① 準備



標本にする脱皮殻のはさみやあし先が、しっかり残っているか確認します。これらが欠けていると、標本にしても正しく紹介できないことにつながるので、入念に行います。

② 塩抜き



次に、体についている砂やゴミをとり、きれいにします。また、海水の塩分が脱皮殻に残っていると、うまく乾燥できず、カビの原因になってしまうため、真水につけて塩抜きをします。

③ 固定・乾燥



そして、あしの向きや姿勢を決めたら、関節などが動かないように、ピンや竹串を発泡スチロールの板に刺して固定し、数日間乾燥させます。

④ 完成!



数日後、乾燥して標本が固まっていれば、ピンを外して完成です! 展示するときには、透明なケースに入れて、裏側までしっかり観察できるようにすることもあります。

エビやカニのなかまは、水槽内で隠れていることが多く、観察が難しいこともあります。しかし、標本では生き物を間近で、なかなか見ることができない体の裏側もじっくり観察することができます。こうして作った脱皮殻の乾燥標本は、情報資料室などで展示しています。実際に触ることができる標本もありますので、ぜひ情報資料室にお越しください!

(教育普及係 津山 透)

TSLP LATEST

TOKYO SEA LIFE PARK

- 6/10 「浮遊生物 5」水槽でオオバウチワエビ(フィロゾマ幼生)を展示
- 6/14 親子向けフィールドプログラム「東京の海を知る」を実施
- 6/17 「東京湾の漁業」水槽で完全養殖のニホンウナギを展示
- 6/17 「東京湾の漁業」水槽でライトトラップで採集・育成したボウボウを展示
- 6/19-20 フェアリーペンギンの有精卵12卵をオーストラリアから輸送
- 6/23 フェアリーペンギンの卵がふ化。7月12日までに8羽誕生
- 7/2-28 情報資料室ミニ企画展示「干潟へ行ってみよう!」を開催
- 7/7 「東京湾にもいるこんな生物」水槽で水族園生まれのクワイカを展示
- 7/7-14 「みんなで決めよう! 新しい水族園の生き物たち」を開催
- 7/9 「深海の生物 4」水槽でクルマダイを展示
- 7/10 「オーストラリア北部」水槽でナーサリーフィッシュの展示を終了
- 7/18 海鳥フェスティバルに参加・アバターによる解説を実施



TOKYO
SEA LIFE
PARK

編集後記

ひとくちに甲殻類と言っても、私たちがよく食べるエビやカニから、今号で紹介したフジツボやワレカラまで多種多様なものがあります。成体は多様な姿をしていますが、脱皮をして成長したり、幼生のときには似ていたりします。多様な生き物のもつ共通性に目を向けてみると、今まで気がつかなかった生き物の面白さを見つけられるかもしれません。(田中)

SEA LIFE NEWS 通巻 129

Vol.24 No.4 2026 AUGUST 8月1日発行(次号は2026年10月発行予定)

編集 葛西臨海水族園
〒134-8587 東京都江戸川区臨海町 6-2-3
TEL.03-3869-5152
www.tokyo-zoo.net/zoo/kasai/
発行 公益財団法人東京動物園協会
〒110-0008 東京都台東区池之端 2-9-7
池之端日殖ビル 7 階
TEL.03-3828-2143

